

エアコンクリーニング作業マニュアル
スタンダードエアコン
お掃除機能付きエアコン

業務用エアコン (天井カセット型4方向出タイプ)

【協会モデル】

1. 資機材及び洗剤

No.	資機材名	
1	高圧洗浄機	
2	バケツ	必要数
3	脚立	3段以上の物
4	洗浄シート	オープンタイプ等（業務用は機種・タイプに合った物）
5	噴霧器	アルカリ洗剤
6	スプレーヤー	アルカリ洗剤
7	掃除機	肩掛けタイプ等
8	プラスドライバー	電動、インパクト、ラチェット、ショート等
9	プラスチックヘラ	
10	ハサミ	
11	ニッパー	
12	ペンチ	
13	レンチ	モンキーレンチ、六角レンチ等
14	ケレン	
15	スポンジ	
16	ブラシ	刷毛ブラシ、Jブラシ、洗浄用ブラシ等
17	ウエス	必要数
18	洗剤	弱アルカリ性天然系エコ洗剤：えがおの力 アルカリ性合成洗剤：ブレークアップS等
19	養生シート（床用）	必要数
20	養生シート（壁用・家具用）	
21	マスキングテープ	
22	テープ	養生テープ、布粘着テープ、ビニール絶縁テープ等
23	ドレンホースクリーナー	
24	クリップ	
25	EZ-NOTE（イジー・ノート）	ヒノキ消臭剤 洗浄用
26	EZ-BIO（イジー・バイオ）	消臭剤 ドレンパン用
27	mini mini（ミニミニ）	据置き型消臭剤
28	補修キット	
29	ドライヤー	
30	結束バンド	
31	ピックツール	
32	内張りはがし	
33	基板コネクター抜き	
34	散水ホース等	
35	ブロワー	

2. エアコンクリーニング作業の流れ（洗浄前の準備）

作業内容	主な働き
1 事前準備	資機材・道具の搬入
↓	
2 事前点検	作動状況・周辺状況の確認
↓	
3 作業段取り	作業環境の設営
↓	
4 床面・壁面の養生	室内の汚損防止
↓	
5 室内機分解作業	洗浄準備
↓	
6 洗浄前の処理	熱交換器等のホコリ除去
↓	
7 本体の養生	電装品等の水濡れ防止
↓	
8 洗浄シート装着	室内への洗浄液飛散防止
↓	
9 ドレン受け設置	洗浄液の回収

3. エアコンクリーニング作業の流れ（洗浄）

作業内容	主な働き
1 洗浄準備	高圧洗浄機準備・洗浄液の調合
↓	
2 洗浄 1	洗浄液の噴霧（5分～10分放置）
↓	
3 洗浄 2	ブラッシング（汚れの状態による）
↓	
4 部品の洗浄	筐体・エアフィルター等の洗浄
↓	
5 水洗い（業務用は水切りも実施）	高圧洗浄機による洗浄液と汚れの除去（水切り）
↓	
6 養生撤去	養生・洗浄シートの撤去
↓	
7 消臭・防カビ処理	消臭・防カビ剤の吹き付け
↓	
8 仕上げ	その他の清掃
↓	
9 組立・点検・乾燥	外装品の組立・点検と本体の乾燥
↓	
10 後片付け	現場復帰

4. 作業詳細と注意事項

区分	作業内容
事前準備	<p>1. 事前準備</p>
	<p>1) 資機材・道具を搬入する。</p> <p>①置くスペースを確保する</p> <p>②養生を敷き資機材・道具を整理整頓して並べる。</p>
	<p>2. 事前点検</p>
	<p>1) 作業場所の状況・周辺状況を確認する。</p> <p>①養生範囲の特定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこまで養生するか、移動備品の有無を確認する。 <p>②外部ドレン排水の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホース内の詰り、損傷は周辺を汚損する恐れあり。2階以上は特に注意。 <p>③洗い場の設定、承諾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗い場：浴室がベスト、次がベランダ、戸建住宅は玄関先など。 <p><業務用エアコンの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・筐体やフィルター等が大きいため、可能であれば外での洗浄が好ましい。 <p>2) エアコンの作動状況を確認する。</p> <p>※異常を発見したら必ず、依頼者に確認を求めること。</p> <p>クリーニング後では本作業による異常とされ損害賠償を求められる可能性あり。</p> <p>①リモコンにて電源ON</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモコンがない場合は「応急スイッチ」を押して電源を入れる。 <p>②破損箇所、振動音のチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振動の原因に、ネジのゆるみ、ベアリング異常がある。 ・前業者による破損の補修箇所がある場合は、作業の際に再度破損の可能性あり。 <p>③臭いの有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カビ臭、タバコ臭、油臭、生活臭、機械臭、室外臭など。 <p>④冷房・暖房能力の低下及び水漏れ等の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房の能力不足は、冷媒ガスの漏れが考えられるので、電気店等への相談を勧める。 ・水漏れの原因は据付レベルの傾き、汚れの詰り、ドレンホースの詰り等が考えられる。 <p>⑤過去のエアコンクリーニングの実施有無を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の依頼理由を確認することが満足を得るポイント。(依頼項目の徹底処理) <p>⑥リモコンにて電源OFF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモコンがない場合は「応急スイッチ」で押して電源を切る。 <p>⑦コンセントを抜く、ブレーカーを落とす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン付近にコンセントがない場合は該当ブレーカーを落とす。 <p><業務用エアコンの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず該当のブレーカーを落とす。

事前準備	<p>3. 作業段取り</p> <p>1) 作業スペースを確保（家具・備品等の移動）…作業環境の設営</p> <p>①襖、障子については、水の飛散からの回避</p> <p>②移動出来ない家具・備品等の防水処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動が難しい家具・備品等は、作業が出来るなら養生シート等で養生する。 ・必要箇所にはマスキングテープ等により対処する。
	<p>2) 床面・壁面の養生…室内汚損防止</p> <p>①床には養生シート等を敷く</p> <p>②壁には壁保護用シート等を設置（壁面の状態により対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和室の壁・白木の養生には注意する。 ・畳は養生シートを2枚重ねる。
分解 (スタンダードエアコン)	<p>4-1. 室内機分解作業（スタンダードエアコン）</p> <p>1) コンセントの確認後、前面パネル、エアフィルター、フラップ、筐体等を取り外す</p> <p>※脚立の立てる位置に注意。</p> <p>①前面パネルを取り外す</p> <p>※前面パネルは機種により外す方法が違う為、強引に外さず注意書き等を確認する。 (ビス止め式、はめ込み式等)</p> <p>②エアフィルターを取り外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィルターのホコリ付着が酷い場合は掃除機である程度除去しておく。(飛散防止) <p>③筐体のネジを取り外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネジの紛失に注意する。ネジのサイズを確認する。 ・ネジは正面にある場合と吹き出し口下部（キャップに隠れていることが多い）にある。 ・電装カバーやカバー内部にもネジがついている場合があるので注意する。 <p>④フラップ（上下風向板）を取り外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラップは無理に曲げないように中央 → 左（右） → 右（左）の順に外す。 ※フラップの取り外し時の破損事故が一番多いので特に注意する。 ※左右どちらかにバネが組み込まれているものは、バネを紛失しないように注意する。 ※状況によってはフラップを外さず作業する。(フラップの劣化等) <p>⑤温度センサー、アース線を取り外す</p> <p>⑥空気清浄装置を取り外す（付いている機種の場合）</p> <p>⑦筐体を取り外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹き出し口下部～上部の順に外す。 下部：筐体底面の「△」「PUSH」等の刻印あたりを押し上げながら手前に引き抜く。 上部：筐体上部はツメで固定されているので引っ掛かりを解除し手前に引く。 (メーカーによっては工具（ケレン等）を使用し外す場合もある) <p>⑧左右ルーバーを取り外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り外し出来ない場合が多いため、外さずに作業することも想定しておく。 <p>※取り外した前面パネル、エアフィルター、フラップ、筐体等は脚立付近には置かないように注意する。踏みつけて破損させる可能性あり。</p>

4-2. 室内機分解作業（お掃除機能付きエアコン）

1) コンセントの確認後、前面パネル、エアフィルター、ダストボックス、フラップ、筐体、お掃除機能ユニット等を取り外す

※脚立の立てる位置に注意。

①前面パネルを取り外す

※前面パネルは機種により外す方法が違う為、強引に外さず注意書き等を確認する。
(ビス止め式、はめ込み式等)

②エアフィルター、ダストボックスを取り外す

- ・フィルターのホコリ付着が酷い場合は掃除機である程度除去しておく。(飛散防止)
- ・ダストボックスタイプの場合は、ダストボックスを外す。

③筐体ネジを取り外す

- ・ネジの紛失に注意する。ネジのサイズを確認する。
- ・ネジは正面や底面にある場合や、吹き出し口下部等にキャップで隠れている場合がある。
- ・電装カバーやカバー内部にもネジがついている場合があるので注意する。

④フラップ（上下風向板）を取り外す

- ・フラップは無理に曲げないように中央 → 左（右） → 右（左）の順に外す。
- ※フラップの取り外し時の破損事故が一番多いので特に注意する。
- ※左右どちらかにバネが組み込まれているものは、バネを紛失しないように注意する。
- ※状況によってはフラップを外さず作業する。(フラップの劣化等)

⑤温度センサー、アース線を取り外す

⑥筐体を取り外す

- ・吹き出し口下部～上部の順に外す。
- ・筐体上部はツメで固定されているので引っ掛かりを解除し手前に引く。
(メーカーによっては工具(ケレン等)を使用し外す場合もある)
- ※左右別々に外れるカバーや、先に底面のカバーを外す等、メーカーや機種により外し方は様々なので、強引に外さず機種に応じた外し方をする。

⑦左右ルーバーを取り外す

- ・取り外し出来ない場合が多いため、外さずに作業することも想定しておく。

⑧お掃除機能ユニットを取り外す

- ・電装部のカバーを外し、ユニットとの結線によるコネクタ類を外す。
- ・ユニットを固定しているネジを外す。
- ・上部がツメで固定されている場合、引っ掛かりを解除する。

※後で確認できるように、必要に応じてデジタルカメラ等で全体像やコネクタの位置、ネジの位置等を撮りながら作業を進める。

※メーカーや機種により外し方は様々なので、強引に外さず機種に応じた外し方をする。

※エアコンの設置状況等により取り外せない場合は、お客様に状況説明し承諾いただく。

※取り外した前面パネル、エアフィルター、ダストボックス、フラップ、筐体、

お掃除機能ユニット等は脚立付近には置かないように注意する。

踏みつけて破損させる可能性あり。

分
解

(お掃除機能付きエアコン)

4-3. 室内機分解作業（業務用エアコン）

1) 本体前面パネル、本体カバー、電源ボックス、ファンカバー、ドレンパン、ファン等を取り外す

※脚立の立てる位置に注意。

①本体前面パネルを取り外す

・エアフィルターも取り外す。

②本体カバーを取り外す

※本体落下防止金具が引っ掛かっていることを確認の上、行なう。

・信号ケーブル、四隅のカバー（無い機種もある）を取り外す。

・四隅のボルトを外す。（緩める）

③電源ボックスを取り外す

・ボックスを開け、各種コネクター類を外す。

※コネクターを外す際に配線を無理に引っ張らないように注意する。

・状況により電源ケーブルも取り外す。

④ファンカバーを取り外す

⑤ドレンパンを取り外す

・外す際にドレンパンに水が溜まってないか注意して取り外す。

※溜まったまま傾けて周辺が水浸しにならないように注意する。

⑥ファンを取り外す

※軸受けのワッシャー等を紛失しないように注意する。

⑦モーターを取り外す

・重いので落とさないように注意する。

⑧ドレンポンプユニットを取り外す

・ドレンホースに結束バンドで固定してある場合は結束バンドをカットして外す。

※濡らさないように洗剤拭きで清掃する。

※組み立ての際にドレンホースを接続したら、分解前と同様に結束バンドで固定する。

⑨ドレンフローユニットを取り外す。

※濡らさないように洗剤拭きで清掃する。

※取り外した本体前面パネル、本体カバー、電源ボックス、ファンカバー、ドレンパン、ファン等は脚立付近には置かないように注意する。

踏みつけて破損させる可能性あり。

分
解
（
業
務
用
エ
ア
コ
ン
）

洗 浄 準 備	<p>5-1. 5-2. 洗浄準備（スタンダードエアコン・お掃除機能付きエアコン）</p> <p>1) 洗浄前の処理…熱交換器等のホコリ除去</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱交換器に大きなホコリが付着している場合は、掃除機で吸い取る。 ・電装部や本体等にもホコリが付着している場合も、掃除機で吸い取る。 <p>※熱交換器に付着したホコリ等を洗い流すとドレンホースが詰り水漏れ事故につながる。</p>
	<p>2) 本体の養生…電装部等の水濡れ、水漏れ防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウエスやマスキングテープ等を使って本体養生を行う。 ・本体にホコリや油分の汚れがある場合はテープが貼れないため、テープを貼る箇所の洗剤拭き処理をしておく。 <p>①壁の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体吹き出し口下側と壁面の間にウエスを差し込む。  <p>②電装部の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウエスの長さを調節し覆う。 ・マスキングテープを熱交換器のキワに沿って隙間の無いように貼り電装部全体を覆う。  <p>③吹き出し口の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹き出し口にマスキングテープを貼り汚水が裏の壁面へ流れ込まないように養生をする。 ・左右ルーバーの差し込み口や吹き出し口の奥の、つなぎ目、角の隙間も養生テープ等で塞いでおく。  <p>※機種によっては吹き出し口奥がセパレートに分かれているエアコンがあります。その際水が裏に入り込む場合があるため、対応した養生をする。</p> <p>④その他の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラップモーター等が露出しているなど、必要な箇所にマスキングテープ等で養生をする。

養生
(スタンダードエアコン・お掃除機能付きエアコン)

3) 洗浄シート装着…室内への洗浄液飛散防止

- ・オープンタイプ洗浄シートでの作業

①洗浄シートを装着

- ・洗浄シートのゴムを本体にしっかり掛ける。
- ・洗浄シートの下側は壁にぴったりつけて、本体下部の角と真ん中に何か所か養生テープでずれないように貼っておく。



②天井の養生

- ・マスキングテープを洗浄シート左（右）側面 → 本体上面（天板） → 洗浄シート右（左）側面へと回して貼る。

貼り付けたマスキングテープを広げ天井にテープで固定する。

※テープを剥す際は天井（クロス等）を損傷させないように注意する。

※天井の状態によってはテープで固定せずに、マスキングテープを手で持ちながら洗浄作業を行う。



※養生の意味と機能をしっかりと考えながら的確な養生を行うことが成功のカギ。

4) ドレン受け設置…洗浄液の回収

「室内」

- ・洗浄シートのホース部分をバケツで受け取る。
- ・ホース部分が折れ曲がっていたり、バケツから外れていたたり、塞がっていたりする事が無いように確認する。

「室外」

- ・汚水による周辺汚染に注意する。

5-3. 洗浄準備（業務用エアコン）

1) 洗浄シート装着…室内への洗浄液飛散防止

- ・機種やタイプに合った洗浄シートを装着する。
- ・必要に応じてマスキングテープ等を使用し養生をする。

2) ドレン受け設置…洗浄液の回収

- ・洗浄シートのホース部分をバケツで受け取る。
- ・ホース部分が折れ曲がっていたり、バケツから外れていたたり、塞がっていたりする事が無いように確認する。

6-1. 6-2. 本体の洗浄（スタンダードエアコン・お掃除機能付きエアコン）

1) 洗浄液の噴霧…洗浄液にE Z-NOTE（イージー・ノート）を入れる。（1L:10mL）

①熱交換器（アルミフィン）への噴霧

- ・熱交換器に対し全体にまんべんなく噴き付ける。

②シロッコファン（送風ファン）への噴霧

- ・吹き出し口よりノズルを入れ、片方の手等でファンを回しながら全体にまんべんなく行き渡るように噴き付ける。

③吹き出し口内壁への噴霧

- ・シロッコファンの裏面内壁や下面にもまんべんなく噴き付ける。

④その他への噴霧

- ・取り外せなかった左右ルーバーや汚れの気になるところにも噴き付ける。

2) ブラッシング

- ・洗浄効果を高めるために、熱交換器、シロッコファン、内壁面、その他に対しブラッシングを行う。（汚れの状態による）

3) 部品の洗浄…筐体・エアフィルター等の洗浄

- ・設定した洗い場に部品や洗剤を置くための養生をする。（脱衣所を含む）
- ・洗い場内にも養生を敷いてその上で洗浄する。
- ・表面を傷つけないように直置きしない。
- ・エアフィルターは掃除機でホコリを除去してから洗浄する。
- ・洗浄後、水気を拭き取り自然乾燥させておく。

※パネルに噴霧した洗剤が乾燥すると、パネルの変色の原因となるため絶対に避ける。

※浴室で洗浄した際は水気を拭き取るなど、洗い場を綺麗にしておく。

＜お掃除機能付きエアコンの場合＞

- ・お掃除機能ユニットやダストボックスのホコリも掃除機で吸い取る。
ホコリを自動排出するエアコンの場合は、排出経路のホコリも除去する。
- ・お掃除機能ユニット等の水洗いできないものは、洗剤拭きで清掃する。

4) 水洗い…高圧洗浄機による洗浄液と汚れの除去

①高圧洗浄機を使い洗浄液及び付着している汚れを洗い流す。

- ・熱交換器、シロッコファン、吹き出し口内壁面、その他を水洗いする。
- ・熱交換器に対してはフィンに対し垂直に噴霧する。

※斜めにあてるとフィンが倒れることがあるので注意する。

※シロッコファンの洗浄は、ブラシや手などで回転を止めて水洗いを行う。

ファンが水圧により逆回転すると故障の原因になることがあるので注意する。

※シロッコファンが高速回転している時は道具等を差し込まない。

ファンが破損する恐れがあります。

- ・作業中は時々漏水していないかを確認する。
- ・汚れが出なくなるまで高圧洗浄を行う。
- ・汚水はお客様に確認していただき適切な方法で処理する。

洗浄
（スタンダードエアコン・お掃除機能付きエアコン）

洗 浄 (業 務 用 エ ア コ ン)	<p>6-3. 本体の洗浄 (業務用エアコン)</p>
	<p>1) 洗浄液の噴霧…洗浄液にE Z-N O T E (イ-ジ-ノ-ト) を入れる。(1L:10mL)</p> <p>①熱交換器 (アルミフィン) への噴霧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱交換器に対し全体にまんべんなく噴き付ける。 ※熱交換器裏の発泡スチロールにカビやホコリが付着している場合も洗浄の対象とする。
	<p>2) 部品の洗浄…筐体・エアフィルター等の洗浄</p> <p>①本体前面パネル、エアフィルター等の洗浄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した洗い場に部品や洗剤を置くための養生をする。 ・表面を傷つけないように直置きしない。 ・エアフィルターは掃除機でホコリを除去してから洗浄する。 ・洗浄後、水気を拭き取り自然乾燥させておく。 ※パネルに噴霧した洗剤が乾燥すると、パネルの変色の原因となるため絶対に避ける。 ※洗い場は水気を拭き取るなど、綺麗にしておく。 <p>②本体カバー、ドレンポンプユニット等の清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体カバー等のホコリを掃除機で吸い取る。 ・本体カバー等の水洗いできないものは、洗剤拭きをする。
<p>3) 水洗い・水切り…高圧洗浄機による洗浄液と汚れの除去・乾燥</p> <p>①高圧洗浄機を使い洗浄液及び付着している汚れを洗い流す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱交換器、その他を水洗いする。 ・熱交換器に対してはフィンに対し垂直に噴霧する。 ※斜めにあてるとフィンが倒れることがあるので注意する。 ・汚れが出なくなるまで高圧洗浄を行う。 ・汚水はお客様に確認していただき適切な方法で処理する。 <p>②水切り・乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロワーを使用し熱交換器等の水気を飛ばし乾燥させる。 ・ウエスで水気をぬぐう。 	
洗 浄 後 (ス タ ン ダ ー ド エ ア コ ン)	<p>7-1. 7-2. 洗浄後の作業 (スタンダードエアコン・お掃除機能付きエアコン)</p>
	<p>1) 養生の撤去…養生・洗浄シートを外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養生したマスカ、洗浄シート等を撤去する。 ・電装部の撤去の際、水気がかからないように注意する。 ・ウエスで水気を拭き取る。
	<p>2) 消臭・防カビ処理…消臭・防カビ剤の吹き付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臭いの気になる場合はE Z-B I O (イ-ジ-バ-イ) をドレンパンに数滴垂らす。 ・防カビ処理は筐体等取り付け前に熱交換器等に噴霧しておく。 <p>3) 仕上げ・その他の清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体まわりを清掃する。 コンセントプレート、キャビネット外枠、リモコン等も汚れを清掃する。

<p>・お掃除機能付きエアコン</p>	<p>4) 組立・点検・乾燥…外した筐体等の組立・点検と本体の乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥させておいた部品を取り付けて組み立てる。 外した逆の順番で組み立てていく。 ・組み立てた後、電源を入れ、送風運転等を行う。 作動した際に水滴が吹き出すので、吹き出し口にウエスをあてがっておく。 作動確認と本体の乾燥を行う。 <p>5) 後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動した家具・備品等を元に戻す。 ・資機材を搬出し作業終了になります。 <p>※すべての作業終了後、お客様立ち合いのもと、作動確認を行う。</p>
<p>洗浄後 (業務用エアコン)</p>	<p>7-3. 洗浄後の作業 (業務用エアコン)</p> <p>1) 養生の撤去…養生・洗浄シートを外す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養生したマスキング、洗浄シート等を撤去する。 <p>※熱交換器裏の発泡スチロールや本体等の水気や汚れも拭き取る。</p> <p>2) 消臭・防カビ処理…消臭・防カビ剤の吹き付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防カビ処理は本体カバー取り付け前に熱交換器、ドレンパン等に噴霧しておく。 <p>3) 仕上げ・その他の清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体まわりを清掃する。 ・リモコン等も汚れを清掃する。 <p>4) 組立・点検…外した筐体等の組立・点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥させておいた部品を取り付けて組み立てる。 外した逆の順番で組み立てていく。 ・組み立てた後、電源を入れ、作動確認を行う。 ブレーカーをONにしても直ぐには電源が入らないことがあります。 <p>5) 後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動した備品等を元に戻す。 ・資機材を搬出し作業終了になります。 <p>※すべての作業終了後、お客様立ち合いのもと、作動確認を行う。</p>